



蕉門名錄集  
集

~ 5  
6624



85  
6624

B228  
あな

学部図書に移管48年6月8日



60429

早稲田大学  
教育学部図書

雲裡坊撰  
井筒至・塙屋合板

<2000-304>

名録集夏之部 義仲寺雲裡輯

尾張州

雲の峰嶽くけおそくむ也 野水

茨の垣も志すぬあつさぬ 素晚

名

名古屋連中

卯のふふれまはつ峰もなますれ 巴雀

あまのいまに勝よりほくさぬ 木兒

名録集

新井や菅の若きも 美しきとこれ人 蝶くの百夜も 卯の屯乃よ 磯くはれそのま 桐のむゆくや 詠ふれ羽の堀 恋痛の定ま	秀根 其麦 其東 不二 梅居 計吏 里潤
--------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------

ほる大れ花あり 福神のあまも 父くちや 竹植ふ日や ふるまはふ 一日乃地獄の 有ふの ぬき持る種や	桐亭 鬼白 芦鶴 志友 千雀 簡兮 且賀 寄蘭
------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------

名録度

三

父を其の元へさしつゝはやぬれを	花
竹の子やまはれ子もちひさし	芭丈
ふらふれ動いゝく水新 <small>傳</small>	孤暈
古翁の扇前 <small>子清</small>	
古塚やうに暮く鳴けん <small>二鳥</small>	雨月
けとれ小籠も上を見を <small>上原</small>	巴石
新籠も目と甲 <small>大山</small>	可笑
卯のふやふの中 <small>お寺馬</small>	車空

三河州

赤かけと時計は体む田 <small>吉田</small>	麦雪
着經の <small>くま</small> ハ波濤乃固融 <small>家</small>	只川
木の言 <small>う</small> る赤に足すや鐘 <small>れ緒</small>	麦雪
かくせ <small>は</small> は赤をよ <small>こ</small> 道 <small>は</small> 杜 <small>子</small>	疎林
下戸 <small>お</small> を <small>し</small> れ <small>と</small> お <small>の</small> こ <small>は</small> 着 <small>る</small> 海 <small>赤坂</small>	如釣
赤 <small>は</small> 海 <small>や</small> 一 <small>何</small> つ <small>れ</small> あ <small>か</small> く <small>る</small>	里郷 <small>少年</small>
ぬ <small>や</small> り <small>方</small> や <small>家</small> の <small>心</small> 氣 <small>は</small> ふ <small>く</small> れ <small>も</small>	葉雨

名録表

三

遠江州

一とくぬたにおとるや梅の意 郭見 初三  
 ちとせれ替みむとよ清あふ 下内田 桃浦  
 曙もつら花なくあふれの南 未正  
 月影を升たふあふれ相の舞 池彩田 停亭波  
 蓮の葉れくくみ下地や仏生々 松爪 桃詠  
 ひとくもれれ比やせみのあ 松袋井 桃泉  
 さとせれや十方ふく道て時乃海 舞坂 丸丸

糸竹や松よハきくぬた以持 竹子  
 所寺てを八日かしく新葉は 潮見 扇里

駿河州 府中連

由とれや秋まほふふ名あ子 鳳枝  
 入あひの衣以ほさぬ幟の那 己白  
 芍薬やほふんの詠とや日やと 乙兒

如南の扇あふ

古池や塚も遠く昔のまね 千雨

石舟やとのうんれくひもの 廣京 屋我

くま子のふねからいふあひさが 唯楊

粟稗も南くやう海れが 大宮 玄彦

武蔵州

挑灯の光に泣けし 保 松風

巾の魚や福く起て来まる 嵐南

右 東都

東都

新巻れ袖やく免て丸の草 草路

隣も云紫乃栲や内す葉 山路

己う久れあまの軽きもある 山光

あふ赤はく碎く 高阿 榊古

佛の子やひく 了月 魚扇

滔るれ栲も や 杜洲

赤らめよかりしをばつとや登る杭	長打
奥さうなうりくあまやあま紫山	勢可
小つちかばしなぐるや氷の水遊ひ	如貝
春のひより合點や木下園	羽寛
那子れ詠もさし山や五月雨	瓜山
涼くさび竹不疎て通き紫	又什
竹の子や寺れ伎芝いづれさ	悟車
屏風ほけ日や在あまも木下宮	龜童

ほくさの鳴くや紙性の一あし	左蘭
灯たて精川とんきれ管の那	沙明
仙人を重くのせく田く人か	渭明
涼風以同よんふ草乃う紫山	春江
花のえもまきゆきしや杜あ	歌定
新は昨をかきくく田植うぬ	芋畔
湖赤おきんともあまあつさび	永我
おれと地のえをまきく杜丹哉	三朝

台録夏

⑤

有かひの佛も葉をのほらん	梅人
口より鼻に吹すはほろふ	春外
夜やうく芭蕉よかん	鉄笛
樂みいそはこれ花や夕すみ	み登松
比るう終や標もよほく	鉄洲
都くまはたうく	葛應
峰越く何玉の神音	祇帆
都くまありの葉あり	一桂

色はーや澄の例乃	義人
そらう水や神もす	五扇
そくまはる花梅や	梅郷
草庵のさし	越我
んきよそのれ	里調
んまじりて	美夕
山寺の祓	大申
たの本をむ	唯夕



湖南の原家より詠く

とととの色葉を風やせよきる 詠苗

師の思れよふやるやちくまふ 詠橋

その徳といふく高しき水も 詠口

玉南くやるも唐紫花一うりわ 梅園

芝連中

子し女の已もくちらよ水も 茶溪

涼風や鳴る目あまふ田の橋 芋園

四

むよ酔ふてる所免たりほく 乙羽

く山流きれ襟もく涼し杜あ 故貝

岸の戸とやめよまぐめとそせれ橋 芝園

葉ふかやふ葉ふかあや免は 如繡

花は根なる南ぬあやや時鳥 對雨

おふうさびいく声はくく 亭江

晴のほろも新乃あう 亭風

お物のおしえとわす 和弓

湖南の原より訪るる千幻怪唐の再興  
かく曰詠乃権のまはしうし権の行ふは

芝植一権の事陰志涼一さん 筋向

日の星も花陰さうりふ影あふ花が 免園

粉の舞あひれく末よほらり乳 玉芝

赤影さのそく癖あひる空のむ 下谷 阿丘

年くやあつをくも峰一とあり 僧 阿萍

思ひ麻の着と笑ふうわさきあ 得二

行らふ影とんせはもほりま守 乙里

かありく毛蝶よりまひり一文衣 女 可雪

嘆きよももよそけあ カキ 帆 竹子

山もこれ笑ひはくせはほくきん 律師 至三

*品川連中*

男より女は目も川因う乳 僧 雲化

子し女もあや先わくも田あ成 女 梅枝

六の鐘小起しは多事し道ん外 飛束

新燈も一ねも互古や聲も成 橋下

拾録

九

明崎の事陰々ありて是れ 完山

鴻巣連中

甚に十日及十日と厚くんが 柏也

あつた日た志道子あり風々も 免環

おあくはち又まもあるまふ 柙儿

水もあふく消るるまふ 牧西 雪丈

下総州

虚無僧の背此高きと云ふ 本所 窓柳

卯るちやひとつに終ぬあり 窓雪

是より証信ふありや田子あり 窓牛

後より証信ふありは 窓石 文橋

相模州

花と紫れ色とくしてあふり 山田京 麦由

常陸州

月屯のあふくすじや杜鶴 笠間 一銭考

陸奥州

仙臺を至庵連中

かきてもくく月乃かきぬれ 白英

ほく眼く富士わ紫雲の峰 東經

経ねびゆめしや風の蔓えぬれ 里幸

卯の玉小糸や比ばうく文衣 河川

かす子此新や浅夏の夕附日 可耕

計乃もと花よ経出す茨うか 一通

ほく大び志りかひしや五月雨 何色

夏に水遊きるききみうれ 千茂

卯の世尔言やきけし月夜 <sup>か</sup> 菊二

経ね小るなやんきく新水の屯 又叟

ゆいれや定くくえきみお長屋 壺邦

招卓よきやまかゆききあ 雨竹

大木に蜂の鳴入れあつさか 焉明

雨の日にむれきくく芭蕉うか 焉孝

涼きや松びうさく月の新 玉水  
長きそとふさつりやら松葉 左洲

止鳥庵連中

舟の屯れ書不次や猫の恋 芳妍  
涼風乃出たをえき糸柳うね 芳角  
夕鳥の屯とつとくすこ家 葉室  
ゆきこれや山を秘つとく水も音 松苞  
猿浮や柳とのまむ友の月 洗聴

これ花の書やうみて五月雨 宴此

屯れつとく大町小園乃草紙 松起

七侍に佛ハ妹系小寺の菊 投瓢

舟の子や菊をん何う此花とこ海 北里

まじりゆのたむつう一重乃峰 棠雨

夕べら夜新くゆや山を川 川口 香竹

まゆまれくなまくむらふ牡丹 東兎

紫さくや浮せとゆしてな木立 采谷 左筈

ほろろと流るる流るる流るる に刺 完山

耳もまことのうらとく塔一杜宇 山極

山目速中

葉はらうふくみとねとさるの積 稻秀

ゆるゆるのむやに糸れ細涼より 菊兒

此の月やもさ帯てさる不害 中尋

さみしけのう株耳にやふふんあ 盲人 風調

舟の葉もさるはるぬふはるさ 一 箭流

滝のそとに風より涼一日の生 閑柗

写るまじと日おれあうと牡丹乳 松例

ふらふらのあふあふおほほるふ 二百八 可真

けあひささく一柳子つとと里 磐井 舊苔

から快ふお招きや唐の杜あ 會津 嘯風

常盤も絶好あはけふふふ 全一葉并 葉風

出羽州

志く路やましくもあす禦の中

不玉

九

みづあや汐能はまこ二日名ひ

庄内高田 虎砌

ゆくのや路より又よとほくま

素龍

石底へ風やうけくくその峰

文理

曇大いへ何て涼し田のうよ

富上山 吟里

水際ひ朝露もえそくあや秋ハ

左林崎 花室

越後州

高田途中

夕に秋や高田に風の遠く秋

如雲

操きうけ湯氣くせくね晒向

竜波

水うみへ棚きせくくすく乳

庭古

さくちやえふとぬ橋の家叫ぶ

和水

草居草のうき橋くけく田植ぬ

喜白

越中州

百竹の又々々々福克やお月ほ 修之

くふ子ハ水のくうやちと三以 妻風

ゆゑこれとこのお枝瀾を重乃景福野 其江

なれはゆくとお枝瀾を重乃景戸出 康工

加賀州

おぬきやふまゝ子ゆりほとらん 桃妖

右

佛もほつりゆあし文衣金沢 舎呆

ゆきおとせお新やありと蜀魂 里朝

涼おやゆやりの定おゆら津幡 見風

三月月ハ玉子お破とせ小松 山叩

るお休のお後とせお水新本吉 乃露

能登州

ほくまてり席渡のあひゆらぬ富本 晚魚



あまの枝や枝よみくさるる体は石 袒卜

信濃州

松本連中

さくねや月詠うへく回く人笠 蓮徒

川崎此松よききふ月雨 二笠

卯のそれ乃月おやれは玉雲 和風

存てなり又やておしはるる 普眉

火の灯をばしは清て本に闇 加扇

そのの月日やく秋く本をさやき 巴柎

飛ぶ小蝶まてつゆしあらもえん 孤涼

枝も葉も有れまなふお柳うね 竹遊

雨の目ひぬまハ情しき牡丹哉 可岡

佐久郡連中

灌仏の指くあはし葉の草 玉芝

あま梅やそ鳥乃口も確い時ふ 頌花

名録表

て又尔所くをせしや	山々
ゆくや若一まのすみか	霞紅
か芥子乃心を流し	山色
るやと風の菊ふや紙のほり	遊魚
きこく持やうも	羅香
栗れむふひくや入梅の雨ほき	輕紅
竹の子やみー	雞山
るれ尾のおい	僧 兔耳

初七日月橋を	東詞
るる唐の留	上田 雨石
夕られく	飯田 桐羽
みくおや	本曾 李旭
神垣尔百ハ	鮑山

下野州

路録裏

佐野道中

岸や波のさき	これ咲らる	椿家
ゆふ島の敷	や大工の柱	杜川
卯のふらふら	と秋のまは	琴室
あゝこの中	を老ぬる	新乳
五月の子	はひあや	かたも
夕方の敷	や敷	とや
咲る水	新よ	かたも
不深	半布	不深

馬をたふ	人田小	語	此中	不	留
卯の敷	や	秋	の	ほ	き
あや	や	若	う	は	は
上野	品				

下仁田道中

ほお	後	す	栲	面	ふ
鈴	の	子	れ	せ	つ
反	哺				

名録表

父らわぬやねん人し野の夢	李本
鷹の目乃乃るぬやや	夏母
少く神尔はらと清とるそ乳	八支
わく紫もわらうくはや	岐麦
卯のふれちよきや雨も柳	如舟
新口乃若むすはや	毛雪
子若とくふ一折も阿や	西野
ひさしの位はくや	采收

夕顔の花もはゆき細凍	女	梅布
その人れ若ふふおやと移身	女	和青
舟の子や日ひくはる衣	女	巾子
一宮連中		
くしすは湯おやや杜翁	僧	阿中
すー若れ中ふる山や杜若		李戎
橋飛と山長一鏡一ゆの曇		丹胡
ふ園や人と南よとほら		畑蘭

蝉の音はさうさうと夏はれ	羽勢
ゆふれはかきこもるは暑か	席巻
さう響けうの舟は九町と幸ふ	蛙声
ゆふれやさ東の燈は地獄さう	暮夜
あけやさういふゆのまともさ	羽長
ぬきさやさ北極星のま	魚石
あけやさ北極星のま	梅宿
あけやさういふゆのまともさ	百羽

あけやさういふゆのまともさ	胡豆
あけやさういふゆのまともさ	水義
あけやさういふゆのまともさ	惟水
あけやさういふゆのまともさ	英路
あけやさういふゆのまともさ	宮崎連中
あけやさういふゆのまともさ	鷲水
あけやさういふゆのまともさ	八柯
あけやさういふゆのまともさ	南戸

よのうらや己うはくく子	朔宇
入きもの庭と行くや七月十	車前
みよきこり湯さよは侍ふ草家	東直
さされやまをふけは麻之染	未梁
庭を地物もくくやふはきん	梧声
かろをむすくともあやあかひ	如白
月の入れふく山あんなあつそ	<small>吾妻四巻</small> 瑞梅
くろ塚やえのあもつるし	文香

前橋連中

和の者の異さハんハ一の衆	麻人
高川や鏡に物ふく竹一草真	葉岱
登人も足びるぬくほくま	素輪
松平一り一寺うく里く草人子	左我
はるくも草とそらよ川村の寺	梅者
吾橋ふはといあつくやおめ神	蛙更
くちれ本もくくや橋もな本立	扇風

品録裏

全

湖南の原草よ

その中もすまふもあはれと塚れ苔 扣月庵

とけねもたもの人あまを新草 秋湖

ふしめれとふいかりと入日うれ 上新田連 和水

ひま乃淵も嶺もあやふぬあやふぬ 文林

山峰の歌にあろふらんう耶 高崎陸 分江

くらふ一のむに宿るねるはる 如 一江

拭く所ふつかくむは化旅歌 行路歌 豊洲

あ竹やまのふ乃新さとあはれ 扇洲

新是も程とくくねくあやふ 峯角

神は流堀も和入系村母 草津湯本 東市

夕鳥や月波明えお花の咲 鏡梅 松十

遠はまこやあそらぬやあやふ 園十

廟前

色もあふの陰もふとけく垣糸 法川 佛室

どのくふれ一まひらあや時 藤園 貞山

卯のくおれ垣根や伴舞う雲情を 貞川

ちりけてハ蝶の恋あうれをのふ 貞丘

雨前 坂本連中

卯のむや堰あふ紫の糸流りて 其谷

咲きひらむいー男やうき所をさ 如好

舞ふも人に有るされもの相れ也 千和

紫の匂や好とらうら草の色 中和

美濃州

蝶ーさやう蝶入るぬえ此杜宇 杏雨

右

久々星連中

寺の社房の幻燈房再奥の古形を  
あつての紙片をとりて書きしる

なるやあまをひらくおき好ま 海宣

春嬉や好紫ハ何故き輪を山 士錦

公直戸連中



枘のむらさやこ川さけはまら 八土角 芥川

糸れ子や敷も黄い入るぬれ 兎江

かこよれやおなゝあの子銀 松軒

けねのおんゆいれりきり 菊渡

みますぬ指回るや暮るまき 桃溪

ゆかこらよねあやしとや 潜竜

お波のこころいへるわらわ 草芽

辻を小粒のるるや春月お 加竹

空の峰跡くえがけすや不二宿 鬼江

腰伸く老の圓扇や暮る 土岐 百童

中津川連中

灌仏や島もあふく くま 芦園

鳩のお塔乃たきや暮るまき 俳話

塙の香ねる あま 梅志

岩邑連中

桐のむらさ あま 周慶

水くまにまゝくしゆえんれ相の也	善十
俗権よ子れまきま回く人子	真水
懣のまゝ物を咄しを梅もんの雨	十甫
廟あり	
卯のむれはやまゆくる庭塚	里遊
一丁らまの備くれらうやぢくま	本回 軍通
今年もよまこれぬまをり子あ祝	地丸
月をびらまおぼくく写れまは	景侯 風子

町のしん秋よりあまほほくま	大垣 飛良
右挾州	
そのの峰産まよめや妹背山	敦賀 右柵
石見州	
父まられまひや如もかぬ家	淡田 梨明
まう代も角もしくらや鈴森山	蝶鼓
美作州	

ついでに舟や唐千城日地物終津山 長躬

出雲州

大社連中

魂あり小町は終る人杜り水 季硯

鏡取富やほくもは終るほし 冠李

下宮の地へあふるや多屯の音 素川

碓のきくぬるを端として川終ひ 冠李

河終や人をも終乃物くるる水 飄尾

海邊納涼

枕より涼より涼し海の音 季硯

る年一枕 出雲

大社新子選言ありきるありし中  
大病終るをゆく海邊の音  
おくれ

終る終る水と風の志をみよふ 全

比古水と月の子やきり乃あきあき  
けりくるとは終る終るは終るの終る  
おくれおくれおくれおくれおくれ  
りくおくれおくれおくれおくれ

名録集

全

近江八景 各夏季

石山秋月

明安一ふすか山花好の月

三井晚鐘

大和路を三井よりそとく秋の夕

幸崎夜雨

かき崎や夕暮らとく母老の雨

堅田落石

堅田の石のふるまふ居や杜鰲

比良暮雪

雪のふり比良にゆきのまをけ峰

栗津晴嵐

栗津はくもくみよひややまの空

矢走帰帆

帆の蝶のふりも涼一色色の人

勢多夕照

長橋やふん々父思ふ夕すみ

右於石山寺林麓

雲州大社 錢季硯拜書

月星のるる以るおれ暮る家 三刀屋 醉月

おけくす樹くせおとハほくきん 石泉

いふゆやまふハんぬあけの果 寸松

肥前州

涼一さよ堀よまこく竹の枝 卯七

すしゆや月陰は色を置れ癖 長崎 加十

松うらよゆ者中くくゆやとが 沙鹿

好座り古や懐きうえへおそや家 平戸 二半

兎百々やくれのおよと入ふく 雨笠

あ弁と者一羽乃多きみわ 洞鼓

筑前州

湖有廟ある

碑乃心くをれ思ふや苔のむ 干瀬

豊前州

小倉連中

かゝ渡ひまのすくおやうし西 紅巴

涼しや耳と山くはれ乃る 宣北

仙湖毛きふれやふゆらん 我山

あゝこれや旅の森も二日三日程 中津 実国坊

豊後州

あふそ非のいゝいと用る信あり 并集 致侯

利肩の竹雲やみやぶの録ひくる 高田 孤樂

伊豫郡

松山連中

とのう葉れりるゝ教るや榎桐のむ 普施

沈る鳥孔省よりりあき信あり 風徐

名録

七

阿波の目と葉よる山田極小 狂平

花生ま橋のまゝくまやかたんくま 曹工

隣くまをとおまひや群乃正 沂士

海に流をやぬくさくや在る 野風

お明くく山のあわやほくま 志山

讃岐州

ふつるや原もまらぬ水の香 丸亀 筆花

阿波州

懺えやまのふたぢぬ氣久才 安国 退青

備後州

あまの舟や庭一たの海れ香 尾道 紅鸞

備前州

あまの舟や庭一たの海れ香 備前 芳麿

大和州

花のうけ神やあまの舟 郡山 小張

地牛れも海肌ぬくやあまの香 珪角

山城州

市の中と物のよちひやなれ月 凡兆

九

京都

又くさるるゆいねもわな杜あり 大阜

京よふ人呼ぶ中ハ家一時々 百川

又さられはつ橋せうく走るやわ 山只

塔毫と廣きハちの坊やりぬ 芦角

席うり西富士の化粧とふけり 麦都

そんくわん人吹出すや夕そる員 寛元次

月涼一おるも人も草南とく 矢木

舞大北清ても路のほるるぬ 麿朝

長竹の例とあつらん水らむ守 一丸

廣新に

夕息をむたふいぬを松笠 猪角

友事ねとぬもよ葉や鳴の海 山科僧 僊行



戸とつゝるれと向よの水鏡が 邦達

近江州

山吹も巴を吹く田うらふ 許六

灌仏のたれはさし向うう子 尚白

中

栗津連中

あまのつやとまを継ぐ子ひし 文素

ふ柳子臨むるはさし僧 仙風

神鳴はあまのつやとまを継ぐ子ひし 應澄

紫波のつやとまを継ぐ子ひし 落州

こゝろとやあまのつやとまを継ぐ子ひし 冬昔

大津連中

筆の虫れおえんくそく 巨明

竹れ子や又あまのつやとまを継ぐ子ひし 五瑤

あまのつやとまを継ぐ子ひし 芳川

花よけのつやとまを継ぐ子ひし 桃秀

大薊や猫のひらねれ花也 尾仙

少引花藤さ久結ませ時多 露下

蓮白ちや久藤くは花重と伝の水 菊峰

孤舟昭所 孤舟

くも又耳く異く一蝶乃あり 草津 雅筵

江鈴蓮中

蝉ふくや柳くもやれ舟舟凡 由此

舟のむに空々まきありく一海堂 松露

公孫子にそく確いやー垣隣 飯来

唐の戸も志久して牡丹れまらる 蘭舟

八幡連中

名のはくあさ風涼ー新れ市 二松

むさあもいさきと遠くはるか 帆舟

根つられ唐糸あつー土印さ 湖松

三日月とふくーそめよとく 珍香

赤子ねく世後の小あれ跡さうし 松娥

續若れ竹討と松のよき地あり 日野連 桃園

山びこの所より音もなき 日野連 哥舟

古池に花散るるや 日野連 露橋

うのくれやむふ 甲賀連 瓢水

よ衣子あはれ 岩井連 奇松

卯の却や空へ 岩井連 厚窺

ふえれ 川手連 松室

越色連中

月尔哀けりて 梅律

虎との寐を 冠邑

思ふ 梅園

夕顔や妹 五雲

秋をふ 桃水

伊勢州

と 芦本

名録

名残を祢ふひの中れゆらん也

如真

右

山田連中

花ひらく日れ照るさ月ほくし

雲蝶

幻住庵再興のすくまきれ

湖千むふ枝おやなゆひ

洞爺

お雨は通しうおお人のさき

汪文

るお由 通しうおお人のさき

鬼舩

吾顔々 風を麻入るきくはくし

待鬼

沈るるおまきさう夕ふくさ

董柯

足あき色ハ山とちんさー 塚のさ

如竹

ふ山のるおくさうー 雲の峰

松夫

押あふさきさハ 清おれあつさ

六雅

夕息のむおかすや 梓もさ

六枝

沈是れ下京とを 終回うん

山鼓

さうおまきさハ 清おれあつさ

友季

人子縁振きくを記やんれ	素白
おのやまにゆきこや乾とや	歌故
現在をゆきせぬや神ひ物	奇曲
秋の名いまもあはれはほやまに	東郭
まご一物く山んはまごの神	花莖
秋のふや神鳴よるまごや	可梁
くひまごまごまご青れ物や	大羽
まご乃う人を清ゆく納涼や那	全之

けり鐘れ清ふるあまを阿し	如之
くまき乃神はぬまをくまふ	寸壘
まはるくは子まおのま田の南	柳具
一物とまごまごまご飛つま	松比
まごのまごのまごまごまご	掛夫
まごのまごのまごまごまご	秋至
一ひまごまごまごまごまご	草司

拾遺集

無

宇治連中

時と地を尋ねてはるる古跡に 僧 曹九

山を登りてはるるも流るる泉 仙 竜

泉を以て細く流るるも 朝 可

重水とありて鬼灯を照らす 洞 秋

地獄を照らすありて流るる 春 侶

源のたへ流るるも 行 御 楚 山

流のほととの田て流るる 安 津 連 二 日 坊

とて松の面影流るる 坐 洲

鈴鹿連中

水をみればはるる色も 坂 下 櫻 仁

葉をさくら乃浮木も 仙 席

あはれを 一 水

夕を 翁 風

あはれ人乃 吾 菊

き 玉 山

高し志かこみくまにしに保れ海 鈴原傳 百豪

葉さうくや付の志れ葉厚の流 底針傳 竹し

葉名連中

僧ひより送れおあやゆり子 曹什

藤くのも入よあまれ牡丹乳 古菱

子前てゆく重れち三持く勢く云 百茂

蟻も塔と組く海らきり 仏坐云 左欄

公達の顔さいくや青さくさき 芦朝

卯の屯れ咲是ら新やまひの夜 大斗

月なうてう山むくもくく牡丹 乙鳥

えう蟬よ一すく西さあ山さうか 東杜

薄のむれもやとれりて海流 鴉七

子子芥の之株さうも室さあをが 馬仁

葉あうくや葉さうも枝のあをむ 夏井

藤のむれおくんや小塔燧くか 千壺

竹の子れあ葉やうかあひくさ 梅左

名録表

⑤

柔さくく同ふくは家にはり 塚之

川物や日阿とくは乾は砂 白柳

あうはさく罪も清ゆく物毎一毎田 梅隠

清仏たほさうと友のくめぬ四日市 玉之

志摩州

る羽達中

みしうおや林よめく富士の暮 露曉

雲ほりに弱らるるあうぬ玉瓶 義舟

小むすめも穠ふらうる回く人乳 釋通

亡人部 治牙不次

まがととれももやうん子苗う家東成 閑水

あうらんや年ふたれ氣の絶絶と全 柗居



いはの石に松名古屋一友此月 木之  
 川よりや春もよこし鴨乃目此月全 全伍  
 灌仏の給縁やま川子共全 駐雪  
 鶴井園で羽む仙香一松て通る全 南星  
 春もよこし蝶と足く居る牡丹全 素桂  
 面ふか一竹か一ハ古茶か一杜宇か 希園  
 物清心か竹三一男や粉も名舞三 推巴  
 眠るれそひくう藤涼一松屋の月三 三調

岸の砂小咲帯茶山中津川未晴 其融  
 春もよこし身よこし江前一松の松江前一寺 其井  
 ぬき色に糸茶もよこし佛生葉名云 素遊  
 浦のゆる葉に崩れほ全もひ全 度湘  
 尾も折衣干日全やち全一乃也全 一羽  
 ほもよこし松をこれ松イサ田な全く全 東棠  
 涼全もよこし松全あ全く全一松全身全ひ全 梅路  
 齒もよこし松京や花京二松京の京一京と京笑京 厚松

名録表

四



あらしやとけ地うゆゑる々の部 末 范字

名録集夏部前編終



信濃國北佐久郡

塚原村

茂木旭山

